

第1回

市民ホール整備レクチャー研修会

第1回 日時：6月18日（土） 13：00～16：00

場所：小田原市保健センター 3階 大研修室

司会：桧森 隆一（嘉悦大学副学長／経営経済学部 教授）

パネリスト：市来 邦比古（世田谷パブリックシアター 技術部長）

勝又 英明（東京都市大学 工学部建築学科 教授）

間瀬 勝一（逗子文化プラザ 館長）

三ツ山 一志（横浜市民ギャラリーあざみ野 館長）

○スケジュール

1. 開会あいさつ
2. 紹介
3. 市民ホール基本構想の概要について 桧森 隆一
4. 公立文化施設の事業事例紹介（1） 市来 邦比古
5. 公立文化施設の事業事例紹介（2） 間瀬 勝一

（休憩10分）

6. 公立文化施設の事業事例紹介（3） 三ツ山 一志
7. 参加者との対話
8. まとめ
9. 市民ホール整備市民検討委員会 委員募集について
文化振興ビジョン策定検討委員 委員募集について

○司会・パネリスト プロフィール



松森 隆一（ひもり・りゅういち）

市民ホール基本計画策定専門委員会 委員長
委員長嘉悦大学経営経済学部教授・副学長。行政経営フォーラム共同代表、日本文化政策学会理事、静岡県文化政策審議会委員、(社)指定管理者協議会理事長など。ヤマハ株式会社音楽企画制作室室長として、約 15 年間自治体や公立文化ホールが主催するコンサート、音楽イベントの企画制作、博覧会・国民行事・式典の音楽イベントのプロデュース、企業の地域文化貢献活動などに幅広く携わったのち、08 年 4 月より現職。文化政策、アートマネージメント、NPO 論、行政経営等を広く研究している。



勝又 英明（かつまた・ひであき）

市民ホール基本計画策定専門委員会 副委員長
東京都市大学教授。
82 年～88 年アール・アイ・エーに勤務。93 年武蔵工業大学大学院博士課程修了、工学博士。98 年～99 年イーストロンドン大学客員研究員。劇場演出空間技術協会建築部会部会長。
劇場の建築計画を専門に研究している。



市来 邦比古（いちき・くにひろ）

市民ホール基本計画策定専門委員会 委員
演劇の音響プランナー・オペレーターとして40年以上様々な劇団、プロデューサー、演出家、振付家と協同して演劇・舞踊作品創りに携わる。世田谷パブリックシアターをはじめ、可見市文化創造センター、北九州芸術劇場、まつもと市民芸術館、日田市文化交流施設等の音響設備設計に関わる。96年より世田谷パブリックシアター音響課長、08年より技術部長に就任。現在、世田谷パブリックシアター技術部長、尚美学園大学・日本女子体育大学・多摩美術大学・九州大学非常勤講師、劇団第七病棟同人、日本舞台音響家協会 副理事長



間瀬 勝一（ませ・しょういち）

逗子文化プラザホール館長 全国公立文化施設協会アドバイザー
文化施設運営、舞台制作。舞台監督として演劇、コンサート、現代舞踊、クラシックバレエなどの公演に携わる。藤沢市民会館で舞台運営やイベントの企画運営を担当。93 年から旭区サンハート、泉区テアトルフォンテ、栄区リリスホール、神奈川区かなつくホール、磯子区杉田劇場などの地域文化施設の館長を歴任。05 年より逗子文化プラザホールアドバイザーや館長を務め、10 年より逗子市市民協働部文化振興課課長を兼務している。



三ツ山 一志（みつやま・かずし）

市民ホール基本計画策定専門委員会 委員
横浜市民ギャラリーあざみ野館長 彫刻家
76 年から幼稚園での絵画指導を行う。85 年より横浜美術館準備室勤務、87 年から横浜美術館で子どものアトリエを担当する。横浜美術館アトリエ課課長補佐、学芸教育グループ長・主席指導員を経て、07 年から横浜美術館副館長、09 年横浜市民ギャラリーあざみ野館長に就任。この間、彫刻家として作品制作に取り組むとともに、岩手大学や洗足学園短期大学、横浜市幼稚園協会などで造形指導講師や、造形教材ビデオの監修なども手がける。

○劇場コンサルタント プロフィール



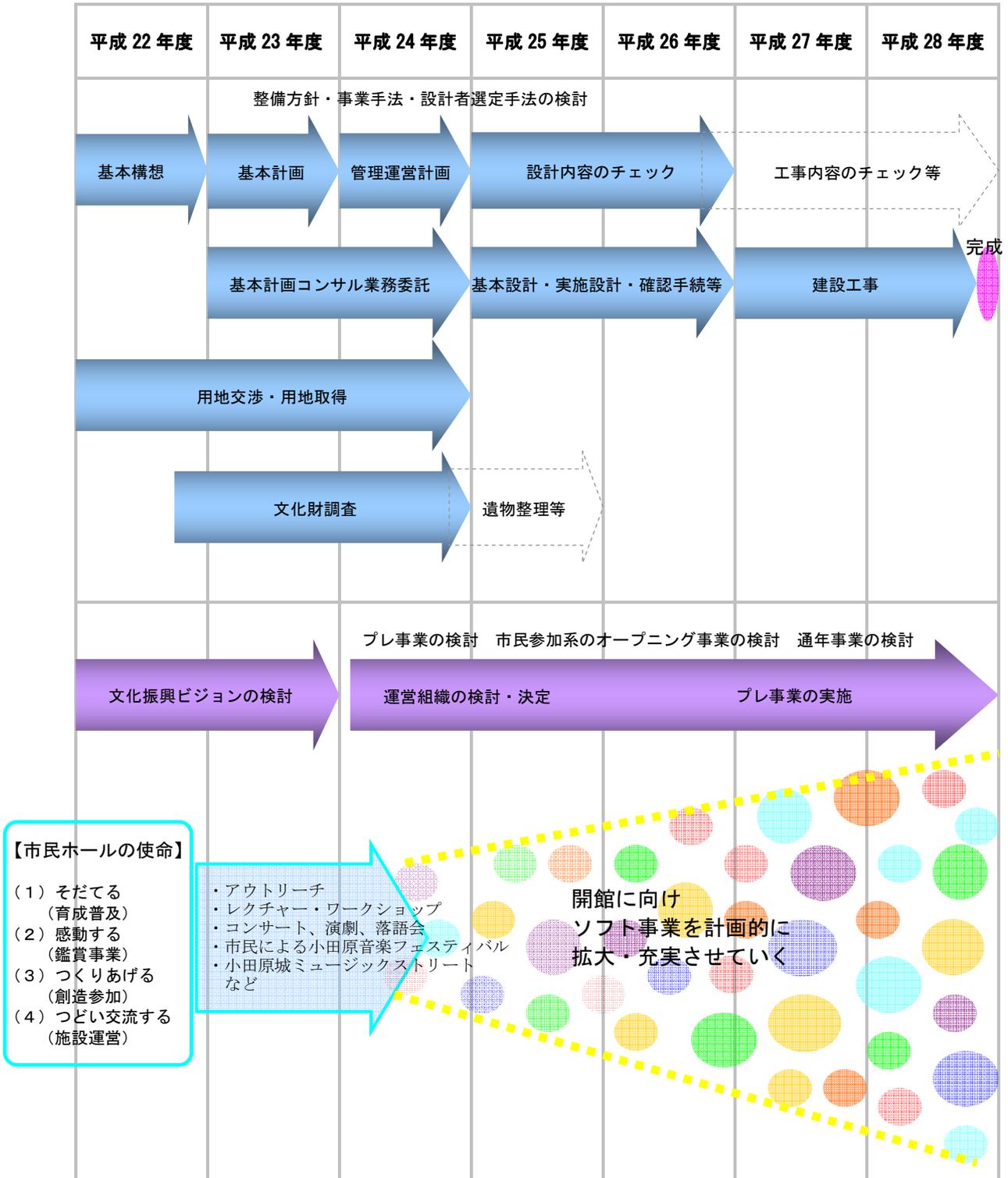
草加 叔也（くさか・としや）

空間創造研究所 代表取締役
劇場・ホールなど演出空間を中心に基本構想・計画から施設計画（建築および舞台設備など）、管理運営計画の策定などに携わる。新潟市民芸術文化会館、長久手町文化の家、可見市文化創造センター、国立劇場おきなわ、兵庫県立芸術文化センター、神奈川芸術劇場（KAAT）など地域の劇場づくりに関わるとともに、ピーター・ブルック、ピナ・バウシュなどによる演出作品の日本公演で技術監督等としても直接上演活動に携わる。公立文化施設活性化事業アドバイザー

○市民ホール整備スケジュール

(市民ホール基本構想 P42 より)

平成28年度の施設完成を目標として、市民ホール整備事業が、単なる市民会館の建て替えではなく、小田原の新しい活力を生み出す「芸術文化創造の拠点」となるよう、文化の担い手の育成、ソフトづくり、確かな運営体制づくり、専門人材の確保、市全体での文化振興への取り組み強化など、開館前から文化事業を行う体制の整備を進めていく。



Memo